





青年部・女性部・フレッシュミズ 設立20周年を祝して

きたみらい農業協同組合

代表理事組合長 大坪 広 則

この度、JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズが設立20周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。この記念すべき節目に、皆様のこれまでの歩みを記録し、後世に伝える記念誌を発行されることは、非常に意義深いことでもあります。

20年間にわたり、協議会から始まった取り組みは、多くの皆様の知恵と努力の結晶です。歴代役員の方々をはじめ、関係者の皆様のご尽力に対し、心より敬意を表します。

現在、農業・農協を取り巻く環境は、ロシア・ウクライナ戦争や国際紛争、急激な円安の影響により、燃料・飼料・肥料などの生産資材の高騰が続き、農業経営に大きな影響を及ぼしています。また、日本国内では高齢化と生産年齢人口の減少が進行し、地域社会における人口減少や農業・物流分野の労働力不足が深刻な課題となっています。

しかしながら、消費者の安全・安心志向の高まりや多様化するニーズに迅速に対応することが求められています。食料安全保障や農畜産物の安定供給への関心も高まっており、これからは新たな発想で対応していくことが重要です。

当JAでは、「組合員の営農と生活を守る」ことを念頭に、消費者や地域住民の皆様から広く応援される農業・JAの姿を目指してまいります。そのためには、組合員をはじめ青年部・女性部・フレッシュミズ・役員・職員がJAの課題を共有し、課題解決に向けて共通認識を図り、組織全体として協同組合活動を強化していかなければなりません。三組織との定期的な意見交換を通じて相互の意思疎通を図り、次代を担う農業者の確保・育成を中軸に据えて事業を推進していく所存です。

この記念誌が、皆様の20年の歩みを振り返り、未来への新たな一步を踏み出すきっかけとなることを心より願っております。先人達の築いた功績を次の世代へと確実に引き継ぎ、地域農業を持続的に発展させ、さらなる飛躍を遂げられることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ 20周年を祝して

北見市長 辻 直 孝

JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズが発足20周年を迎えられましたことに、心よりお祝いを申し上げます。

各組織の皆様には、日頃より当市の基幹産業である農業の振興に、多大なご尽力とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げますとともに、平成16年2月の発足当初より、農業の社会的・経済的地位の向上を図る農業者としてご活躍が続けられ、地域における連携や交流など農業の発展に大きく貢献いただき、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

さて、現在の農業を取り巻く情勢は厳しさを増しており、気候変動による食料生産の不安定化、農業従事者の高齢化・担い手不足をはじめ、食料や生産資材の多くを海外からの輸入に依存している我が国におきましては、コロナ禍やウクライナ情勢、円安をはじめとする国外情勢が資材価格の高騰を引き起こすなど、生産リスクが顕在化し、担い手の確保や輸入資材からの脱却が求められており、将来にわたって持続可能で強固な食料供給基盤を構築するための課題が山積しています。

当市といたしましても農業の持続的な発展を推進している中で、青年農業者がその核であると認識しています。青年部の皆様におかれましては、農業PR推進事業や市立学校での出前授業など多岐に渡るご活躍により、当市農業の発展に寄与していただいております。

また、北見市は、第4次北見市農業振興計画において、女性農業者の経営参画を推進し、積極的に経営参画できる支援体制の整備や環境づくりを進めています。女性部及びフレッシュミズの皆様におかれましては、様々な研修・学習会を通じ、農業に関わる知識・技能の習得や、部会員間のネットワーク構築・連携強化に尽力され、それらが持続可能な開発目標（SDGs）の達成につながるものであり、明日を担う若き青年農業者と情熱に満ち溢れた女性の今後の更なる活躍に期待をしております。

結びになりますが、各組織の皆様におかれましては、今後も地域社会のリーダーとして、当市の農業を牽引していただき、益々ご発展されますとともに、皆様のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ 20周年を祝して

訓子府町長 伊田 彰

JAきたみらい青年部、女性部、フレッシュミズが設立20周年を迎えられましたことに心からお慶びとお祝いを申し上げます。

また、この記念すべき年に記念誌を発刊されることは大変意義深いものであり、発刊にご尽力された青年部・女性部・フレッシュミズの各役員の皆さまに深く敬意を表します。

各組織の皆さまには、農業の発展はもとより、「ふるさとまつり」をはじめとした地域行事への参画や地域振興に多大なご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、深く感謝を申し上げます。

現在の農業を取り巻く情勢としては、地球温暖化が進む中で気象災害の増加による食料生産の不安定化のほか、ウクライナ情勢や円安をはじめとする国外情勢が資材価格の高騰を引き起こすなど、生産リスクも顕在化し厳しい情勢にありますが、将来にわたって持続可能な食料生産基盤を築いていくことが求められています。

また、人口減少社会の中、農業従事者の高齢化や担い手・労働力不足が地域の課題となっておりますが、そういった中での地域の原動力は、間違いなく青年や女性を中心とした皆様であると思えますし、近年は後継者が順調に就農しており、また、Uターン就農も増え心強い限りです。

やはりわが町は、農業が元気でなければ成り立ちません。今後においても、皆様方が安心して活躍できる町づくりに努めてまいりますので、どうか皆様も「地域に根ざした活動」をこれからも念頭に置いていただき、魅力ある農業への理解を求める活動にも今まで以上に力を注いでいただければと考えます。

結びに、設立20周年という節目を迎えるにあたり、これまでの歴史と教訓を踏まえ、部会員皆様の生活と営農の安定をめざして、ますます充実した組織として益々ご発展されますとともに、関係の皆様のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ 20周年を祝して

置戸町長 深川 正 美

JAきたみらい青年部、女性部、フレッシュミズが設立20周年を迎えられましたことに心からお慶び申し上げます。

昨年、今や農産物の取扱高はじめ全国屈指の農協に成長された「JAきたみらい」が20周年を迎え、役職員、組合員の皆様とともに盛大にお祝いをしたところであり、その躍進を支えられた貴三組織におかれましては一年後に再編設立され、それぞれの目的を掲げ、以来20年間の活動の歴史を重ねてこられました。活動の中心となって尽力いただいた歴代役員、各部会員の皆様にあらためて心からお祝いを申し上げます。

また、皆様には農業の発展はもとより、「夏まつり」はじめ地域行事への参画や地域振興に多大なご理解ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げますとともに、深く感謝を申し上げます。

今日、世界各地で起きている国際紛争や異常気象により国民生活にも様々な影響が出ており、資材高騰、食料不足や安定供給と生産抑制、農業者の高齢化や労働力不足等、各農業経営には大きな影響を及ぼしています。また、コロナ感染症による外出の自粛、さらには葬儀の簡素化やリモートワークの普及等々、この間、生活様式も大きく変化しました。コロナ社会の功罪はありますが、時代が大きく変化する中で各団体の学びや集い、交流、さらには食料生産を担う農村社会の重要性が再認識され、国会では25年振りに「食料・農業・農村基本法」が改正され、今後食糧安全保障の議論が進められてまいります。

本町は、農業が元気でなければ成り立ちません。益々農業が発展していくためには、明日を担う青年農業者と新たな価値観を見いだす女性の力が大変重要であります。また、魅力ある新しい農村社会の構築に、行政・地域住民とともにご尽力いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

結びに、各組織の益々のご発展とご活躍、部会員皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、記念誌発刊にあたってのお祝いの言葉といたします。



JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ 20周年を祝して

網走農業改良普及センター

所長 上堀孝之

JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズが設立20周年を迎えられましたことに心よりお慶びとお祝いを申し上げます。

平成15年2月の「JAきたみらい」の誕生に伴い、青年部・女性部・フレッシュミズが再編・設立され、今年で20年を経過したことは、各組織の役員や部会員皆様の努力の結果であり、数多くの成果を取められてきたことに敬意を表します。

農業情勢に目を向けますと、北海道農業の農家戸数は減少を続けており、三組織設立時の平成15年に5万9千戸あった販売農家戸数は平成30年に3万6千戸となりました。令和12年には2万5千戸に減少すると見込まれ、今後も1戸あたり経営面積の増加は避けられない状況です。加えて担い手の高齢化も進行しており、労働時間短縮や労働負担軽減の重要性がますます高まっています。

このような中、地域の維持・発展のためには、地域農業を牽引し、持続的な農業社会を築く多様な人材を育むことが命題です。

三組織それぞれが掲げる「農業青年として誇りを持ち、地域農業を牽引し、農業振興の発展に期する」、「ともに農業に生きる女性として夢と誇りを持ち、農業・地域を担う役割を果たす」、「時代の変化に合わせ、若い世代の農業女性の交流と親睦の場として、営農の知識を身につける」という目標は、まさに地域の維持・発展に直結するものです。

部会員の皆様には、経営感覚を備えた優れた農業経営者、地域をリードできる女性農業者として、その役割が期待されています。

網走農業改良普及センターも担い手の確保・育成を重要な課題ととらえ、関係機関や指導農業士・農業士会と連携しながら取り組んでいるところです。

地域の担い手確保・育成を目標とした普及活動を展開していくためには、青年部・女性部・フレッシュミズの部会員の皆様との連携も重要だと考えております。今後とも一層のご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、青年部・女性部・フレッシュミズの益々のご発展と部会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



20周年記念誌発刊によせて

オホーツク農協青年部協議会

会 長 東 城 崇

JAきたみらい青年部、女性部、フレッシュミズの三組織が20周年をむかえ、記念誌を発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。また、日頃よりオホーツク農協青年部協議会の活動にご理解ご協力を賜り改めて感謝申し上げます。

さて、我々農業者を取り巻く情勢はコロナ禍に始まり、ロシアのウクライナ侵攻、そして歴史的な円安の煽りを受け、肥料、農薬など資材の高騰、そして機械の高騰が続き先の見えない状況です。

そのような中で、我々青年部にできること、青年部ならではの活動の中で一番大切であることは、青年部組織綱領にも記載がある「組織活動の実践により盟友の結束力を高め、明日の担い手を育成する」ことであると考えております。常日頃、「農家」という仕事をしていく中で、組織活動に一番早くから触れることのできる場所が青年部です。オホーツク地区の青年部として、地域を越えて広く盟友と繋がりを持ち、話し合うことの大切さを実感してもらおうきっかけづくりや、青年部研修大会などを通じ、各単組部長を起点に広く盟友へ成長できるサポートができれば幸いです。

現在、オホーツク農青協では、我々青年部に何ができるのかを考え、消費者理解の促進が重要であるという考えのもと、食育活動の在り方を今一度見直しました。そして、新たな食育活動として、オホーツク管内の学校での授業で活用できるような食育教材作りというオホーツク農業を広く知ってもらうための活動に取り組んでおります。今後、女性部、フレッシュミズの皆さんにもご協力いただきながら、広くオホーツク農業の魅力の発信を行っていきたいと考えております。

JAきたみらい青年部は、現在オホーツク地区の全盟友893名中、206名が在籍している最も盟友数の多い青年部です。これまで、オホーツク農青協にも数多くの役員を輩出いただき、活動に対してご尽力いただいております。また、単組での活動においても農作業安全にいち早く力を入れており、その熱がオホーツク農青協、オホーツク管内の各単組にまで広がっており、非常に良い影響を与えていると感じています。

このオホーツク管内最大の組織力を武器に、青年部、女性部、フレッシュミズともに今後とも益々の発展と、部会員の皆様方のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げ20周年記念誌発刊に際してのあいさつとさせていただきます。



JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズ 設立20周年記念誌発刊に寄せて

オホーツクJA女性協議会

会長 相内 三香子

JAきたみらい青年・女性三組織設立20周年を迎えられましたことにオホーツクJA女性協議会を代表し心よりお慶び申し上げます。重ねて平成15年のJAきたみらい発足とともに今日までその歴史を繋いでこられた役員をはじめ、部会員一人ひとりの皆様に深く敬意を表するものでございます。

農業は常に気候変動、自然災害、国際情勢、農業政策などのあらゆる面で一利一害となる影響を受けてきましたが、ここ数年の間にコロナ禍、国際紛争と誰もが予想していなかった状況となり、加えて農家戸数の減少、担い手不足と現在も厳しい状況が続いています。

しかし、北海道の農業には全国に誇れる農産物があります。地域それぞれに受け継がれていくべきふるさとの「食」があります。

厳しい状況下で作業や営農への対応が困難ではありますが、農業に携わる者として「命」を繋ぐ一部分を作る「農」の大切さを改めて自らも学び、次代に伝えていく必要性があること、そして逆境を乗り越えていくため、希薄になりつつある農業者同士の繋がりを直接ふれあい、支えあうことで再確認し、互いに学び合いながら農業以外の時間の一部分を、組織活動で共有することの重要性を感じています。

私たち一人ひとりの力は小さくても、それがオホーツク14JA、全道、さらには全国へと絆は繋がり大きな力となっていきます。

設立20周年を迎え、JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズそれぞれが掲げた思いと、「部会員一人ひとりが理解し輝ける組織」という共通の思いの実現に向かってこれからの道が順風満帆に進んでいくことを願っております。

結びになりますが、これまでの貴重な足跡を礎として更なる発展をご祈念申し上げお祝いの言葉といたします。